

2014 年日本切手発行状況

昨年より多少は発行件数、種類とも少なくなつたとはいえ、2014 年も発行件数 47 件、420 種類と非常に多くの切手が発行され、購入必要額も 31809 円と昨年同様 3 万円を超えた。これまでの日本切手の発行種類数は今年で 7000 種を超えたことが確実である。小型シート、ペーン、占領地切手等を除いて普通に日本切手と呼ばれるものだけの数で正確さに不安は残るが 7066 種という数になっている。

2014 年発行の切手を種類、料額、発行目的等で整理してみると表 1 の通りとなった。消費税の増税で郵便料額変更にもなう普通切手が 11 種類と多く発行になったのは例年にないことである。特記すべきは、従来の普通切手のほとんどが販売停止、郵便局の窓口から一斉に消えてしまったことである。来年 2 月の新しい普通切手の 12 種発行、更に、今後の消費税増税に際しての新切手発行に際しては郵便局窓口に注意しなければならないことであろう。

金種別発行は郵便料額変更を考慮してか葉書料金切手が昨年に比べ 5% 多くなっていた。発行内容では昨年同様シリーズ切手が 50% 近くと変わらないが、2014 年だけ発行された切手、昔でいう記念切手が 8 件 57 種類と多く発行された。しかし、その内容を見るとスイス国交 150 年、宝塚 100 年、土木学会 100 年、新幹線 50 年、世界サッカーが 9、10 種類と多種類発行されているのに、OECD 会議、児童虐待会議が 1、2 種類とみじめなくらい少ない。本来、記念切手が持つべき広報という役割は放棄して売り上げ重視の切手発行になってしまったことが見て取れる。この事は発行枚数の点からも推

し量れる。発行枚数を発行目的別に整理したのが表 2 である。平均発行枚数で切手趣味週間等毎年発行切手と、所謂 記念切手はシリーズ切手、グリーティング切手の 60% に満たない数である。また、個別に発行枚数を見てもおもてなし花シリーズが 2 シリーズ平均 1000 万枚発行されているのに対して、児童虐待防止会議 500 万枚、OECD 会議 300 万、国体 50 万

表 2 発行内容別にみた発行枚数 (万枚)

発行内容分類	集計	種類	平均枚数
グリーティング切手	33600	143	235.0
シリーズ切手	39500	175	228.6
国体、切手趣味等毎年発行	3440	28	114.6
所謂、記念切手	7870	57	138.1
総計	84910	403	210.1
年賀切手	7900	6	
普通切手		11	

という発行枚数から切手発行の広報という役割が薄れていることが明らかである。

2014 年の切手発行で注意されることがいくつかある。一つは印刷機関に新たに外国の印刷会社に加わったことである。オランダの JOH..ENSCEDE STAMPS 社が加わり、4 機関で表 3 の様な印刷方式と割合で印刷されていた。JOH..ENSCEDE STAMPS 社は次のように紹介されている。

エンスケデ証券印刷 (Joh. Enschede Security Printing) エンスケデ社は積極的な業務展開を行い、イギリスの切手市場に参入するほか、スイス、中国、香港、シンガポール、タイなどのアジア地域の切手や南アフリカの切手の印刷を手がけている。切手印刷部門だけでなく、銀行券印刷部門でも競争が激化し、経営の伸びは必ずしも順調では無いが、長年の信用と技術力に裏打ちされて、着実にマーケットを確保している。

(図解：世界の切手印刷 日本郵趣協会)

表 1 2014 年日本切手発行状況

	発行状況		料額別種類数			発行内容・分類					
						グリーティング切手		シリーズ切手		その他の切手	
	件数	種類	はがき用	封書用	その他	件数	種類	件数	種類	件数	種類
ふるさと	8	50	10	40				6	30	2	20
特殊切手	37	353	86	263	4	10	143	17	145	10	65
年賀切手	1	6	2	2	2					1	6
普通切手	1	11	3	2	6					1	11
合計	47	420	101	307	12	10	143	23	175	14	102

オフセット印刷が全体の 70% と圧倒的に多い中、この ENSCEDE 社、まだ、7% であるが今後どのように変化する

表3 印刷機関別印刷方式

銘版	印刷方式	件数	合計	種類	合計	%
Cartor Security Printing	オフセット	15	16	147	157	37%
	オフセット・エンボス加工	1		10		
	JOH. ENSCHEDÉ STAMPS	オフセット	4	4		
国立印刷局	グラビア	14	15	86	88	21%
	グラビア凸版	1		2		
凸版印刷	オフセット	11	14	104	148	35%
	オフセットホログラム	1		4		
	グラビア	2		40		

表4 印刷方式別発行件数割合

印刷方式	集計	%
オフセット	30	66%
オフセット・エンボス加工	1	
オフセット・ホログラム	1	
グラビア	16	33%
グラビア・凸版	1	
総計	49	

表3, 4ともに印刷方式と機関の関係から年賀切手の件数は3件としたため合計件数は49件となる。

うか。二つ目はデザイン、サイズの統一性、継続性の無いことである。まず、国体切手、過去、競技デザインを柱にマスコット、競技場、競技用具、競技開催地風景が加わり、今年からは競技開催市町村の花が加わって整理がますます難しくなった。おもてなし花シリーズの発行枚数と考え合せ花切手の人気にこれほどに拘ってしまうかと考えさせられた。次は国際文通週間70円切手である。昨年初めて従来の切手と同じ東海道五十三次切手として発行されたのが今年サイズを小さくし、広重の浮世絵花鳥画切手となって発行され、五十三次完結が遠のくことに加えて、統一性、継続性に疑問を持たせる切手になってしまった。



ENSCHEDE 社印刷
英国 2002 年発行 1857 年
設置郵便 POST 切手



日本初 ENSCHEDE 社印刷
2014 年発行
自然との共生シリーズ切手

るか注目される。従来と比較すると国立印刷局の印刷件数、種類ともに昨年よりかなり減っていた。これは普通切手 11 種類を印刷しなければならなかった事情があったためであろうか。昨年、件数、種類ともかなりすくなっていた Cartor 社が印刷を再び増やし、凸版印刷はシール切手を中心に全体の約 40% の印刷を行っていた。

次に、注意されるのが海外宛てはがき用の海外年賀切手(差額用)という切手が発行されたことである。18 円普通切手の販売停止にも対応しての発行であろうが、18 円普通切手の発行も然ることながら、70 円海外年賀切手もしくは、はがきではなぜいけなかったのである



国際陸上競技開催地
諫早市花ツクシシャクナゲ



国際文通週間
広重作 雪中椿に雀

更に、2つのことが気になった。まずシール切手がグリーティング切手の 90%、全体の 40% 近くを占めてきたことである。半数近くをシートで購入させられることになり、使用の利便性、販売の簡素化は理解するが諸外国に見習った発行、販売は期待できないであろうか。最後はふるさと切手がここ 4, 5 年の 30% 近くに減じたことである。国土緑化、国体、地方自治 60 年だけの発行になった結果である。このようになってみると、ふるさと切手発行開始当初のような地域により密着した切手の真に節度ある発行を期待してしまうのは収集家の夢であろうか。(編集子)



海外宛て年賀はがき用の差額用切手